

医学研究科の教育基本方針

アドミッション・ポリシー（入学受入れ方針）

自主創造の理念を念頭に、醫明博愛の実践を基盤とし、自立した研究活動の基礎となる研究能力を身につけることを目的とする。この目的のために、以下のような人材を求める。

- （１）豊かな知識・教養に基づき、独創的研究を通じて医学の発展に貢献しようという意欲を有している。
- （２）高い倫理感、論理的思考力を持ち、研究成果を世界へ発信する意欲を有している。
- （３）独自の発想を粘り強く推進する研究への意欲を有している。
- （４）協調性を有し、多分野との学際的研究を推進する意欲を有している。
- （５）研究成果を人類の幸福に役立てる意欲を有している。
- （６）生涯を通じて研究心を持ち続ける意欲を有している。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

日本大学大学院医学研究科は日本大学教育憲章に基づき、

- （１）日本大学マインド、すなわち日本文化を理解し、国民の福祉・健康に寄与し、多様な文化を受容し、地域社会及び国際社会に貢献できる医学研究者及び研究指導者を育成する。
- （２）日本大学の理念である「自主創造」を構成する３つのカテゴリーである「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道を開く」姿勢を持って、独創性の高い研究を行い、人類の知の体系に貢献する医学研究者及び研究指導者を育成する。
- （３）大学院医学研究科は、醫明博愛を基に、「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道を開く」姿勢に関する以下の資質と能力を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査に合格した学生に対して、学位（博士）を授与する。

・『自ら学ぶ』

DP1:「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」

生命の尊厳を畏敬し、責任ある医療を実践するための医の姿勢を理解し、倫理的原則に基づいた医学研究を実践できる。

DP2:「保健・医療・福祉の現状理解に基づいた研究能力」

自己の専門領域の社会的位置付けを把握し、地域社会及び国際社会の保健・医療・福祉の現状を理解して、疾病予防と健康増進の向上に寄与する研究できる。

・『自ら考える』

DP3:「論理的思考力」

新たな智の創造をめざし、得られた最新の情報を基に実証的・論理的・批判的な思考ができる。

DP4:「問題発見・解決力」

患者に対して思いやりと敬意を示し、基礎・臨床・社会医学領域いずれにおいても、事象を注意深く観察して、問題を発見し、解決策を提案するための研究を実践できる。

・『自ら道を開く』

DP5:「挑戦力」

医療の基盤となる知識を基に、独創的な智の創造に果敢に挑戦することができる。

DP6:「コミュニケーション力」

多様な文化、社会、環境の中で他者を理解し、その価値観を尊重し、適切なコミュニケーションを主体的に実践して、国際的・学際的研究を進めることができる。

DP7:「リーダーシップ・協働力」

医療・研究チームのメンバーと協働し、医療の質と研究環境の安全管理を念頭に、責任ある研究を実践することができる。

DP8:「省察力」

生涯にわたり、患者の安全を基盤に医療の質を担保し、謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて基礎・臨床・社会医学領域いずれにおいても研究能力を高めることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

CP1:「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」を涵養するために

生命の尊厳を畏敬し、責任ある医療を実践するための医学の知識と教養を修得し、倫理的原則に基づいた医学研究を実践できる能力を育てる。

CP2:「医療の社会性の理解に立った行動力」を涵養するために

自己の専門領域の社会的位置付けを把握し、地域社会及び国際社会の保健・医療・福祉の現状を理解して、疾病予防と健康増進の向上に寄与する研究を実施する能力を育てる

CP3：「論理的思考力」を涵養するために

新たな智の創造をめざし、得られる最新の情報を基に実証的・論理的・批判的に思考する能力を育てる。

CP4：「問題発見・解決力」を涵養するために

患者に対して思いやりと敬意を示し、基礎・臨床・社会医学領域いずれにおいても、事象を注意深く観察して、問題を発見し、解決策を提案するための研究を実践する能力を育てる。

CP5：「挑戦力」を涵養するために

医療の基盤となる基礎・臨床・社会医学の知識を基に、智の創造に果敢に挑戦する能力を育てる。

CP6：「コミュニケーション力」を涵養するために

多様な文化，社会，環境の中で他者を理解し，その価値観を尊重し，適切なコミュニケーションを主体的に実践して，国際的・学際的研究を進める能力を育てる。

CP7：「リーダーシップ・協働力」を涵養するために

医療・研究チームのメンバーと協働し，医療の質と研究環境の安全管理を念頭に責任ある研究を実践する能力を育てる。

CP8：「省察力」を涵養するために

患者の安全を基盤に医療の質を担保し，謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて基礎・臨床・社会医学領域いずれにおいても生涯にわたり研究を継続する能力を育てる。